

王女ジーン

1 王さまの末娘が窓辺に座り

絹糸で縫物をしていました

出窓から外を眺めると

恋人よ 木々は緑

木々は緑に繁っていました

2 娘は針を袖に留め

縫物を足元に落とすと

美しい緑の森に

栗の実とリンボクの実をもぎに行きました

3 栗の実をひとつもがぬうち

栗の実をひとつ 三つもがぬうち

美しい若者が現れました

「なぜ栗の木をたわめているのかい」

4 「栗の実をもぐためよ

木をたわめて実をもぐためよ

美しい緑の森に入るのに

あなたの許しなんかいららないわ」

5 若者は娘の細い腰を持って

緑の小草に横たえました

思いを遂げたその後で

娘を再び起しました

6 「私を思い通りにしたのだから

名前を教えてちょうだいな

私は王の末娘

今夜は家には帰らないわ」

7 「おまえが王の末娘なら

ぼくは王の長男なのだ

どこかの離れ小島で死ねばよかった

国に帰ってこなければよかった

8 「ジーン 最初に国に戻ったとき

おまえは生まれていなかった

豪華な船が難破して

漂流したほうが良かったです

9 「ジーン 二度目に国に戻ったとき

おまえは乳母の膝に座っていた
豪華な船が難破して
おまえに会えなければよかった

10 「ジーン 三度目に国に戻ったとき
おまえとここで出会ってしまった
豪華な船が難破して
国に帰ってこなければよかった」

11 王さまの娘は片手を下げて
ドレスのポケットに入れました
小さなペンナイフを取り出すと
深く身体を刺しました

12 王さまの娘はゆっくりゆっくり起き上がり
ゆっくりお城に帰りました
王さまの広間にたどり着くと
うめき声をあげました

13 「ああ お姉さま お姉さま 寢床の支度を
新しい藁をきれいなシーツにくるんでね
ああ お姉さま お姉さま 寢床の支度を
下の お父さまの広間に作ってね」

14 王さまがよろけながら
階段をゆっくり降りてきました
「ジーンよ
なんと低いところで寝ているのだ」

15 「昨日の晩遅く 家に戻ろうと
城壁の側を通ったとき
胸の上に
それはそれは重い石が落ちてきました」

16 女王さまがよろけながら
階段をゆっくり降りてきました
「ジーンよ
なんて低いところで寝ているの」

17 「昨日の晩遅く 家に戻ろうと
城壁の側を通ったとき

胸の上に

それはそれは重い石が落ちてきました」

18

ジーンの姉がよろけながら

階段をゆっくり降りてきました

「ジーンよ

なんて低いところで寝ているの」

19

「昨日の晩遅く 家に戻ろうと

城壁の側を通ったとき

胸の上に

それはそれは重い石が落ちてきました」

20

ジーンがよろけながら

階段をゆっくり降りてきました

兄はジーンの腕に抱かれて横たわり

二人は雪のように白くなって死にました

(中島久代訳)